

当PDF文書は上に示されている企業に関する詳細レポートのアップデート版として作成されたものです。  
 詳細レポート全体につきましては[弊社ウェブサイト](#)をご覧ください。

2019年3月8日、フリービット株式会社は2019年4月期第3四半期決算を発表した。

四半期業績推移 連結 (百万円)	18年4月期				19年4月期				19年4月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
売上高	9,444	9,963	9,447	9,800	10,436	11,062	12,620			
前年比	2.6%	5.1%	11.3%	21.9%	10.5%	11.0%	33.6%			
売上総利益	2,363	2,475	2,702	3,127	2,814	2,999	3,852			
前年比	6.1%	17.2%	26.2%	80.2%	19.1%	21.2%	42.6%			
売上総利益率	25.0%	24.8%	28.6%	31.9%	27.0%	27.1%	30.5%			
販管費	2,119	2,297	2,158	2,242	2,413	2,387	3,236			
前年比	25.2%	50.2%	15.2%	24.6%	13.9%	3.9%	50.0%			
売上高販管費比率	22.4%	23.1%	22.8%	22.9%	23.1%	21.6%	25.6%			
営業利益	245	178	544	885	401	612	616			
前年比	-54.2%	-69.5%	103.9%	-	64.0%	243.6%	13.2%			
営業利益率	2.6%	1.8%	5.8%	9.0%	3.8%	5.5%	4.9%			
経常利益	12	-15	520	910	172	562	559			
前年比	-96.9%	-	122.2%	-	-	-	7.6%			
経常利益率	0.1%	-	5.5%	9.3%	1.7%	5.1%	4.4%			
当期利益	-307	-503	85	157	-148	157	-33			
前年比	-	-	40.9%	-	-	-	-			
当期利益率	-	-	0.9%	1.6%	-	1.4%	-			
四半期業績推移 (累計期間) 連結 (百万円)	18年4月期				19年4月期				19年4月期	
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	(進捗率)	通期会予
売上高	9,444	19,407	28,854	38,654	10,436	21,498	34,118		71.1%	48,000
前年比	2.6%	3.8%	6.2%	9.7%	10.5%	10.8%	18.2%			24.2%
売上総利益	2,363	4,838	7,540	10,667	2,814	5,813	9,665			
前年比	6.1%	11.5%	16.4%	29.8%	19.1%	20.1%	28.2%			
売上総利益率	25.0%	24.9%	26.1%	27.6%	27.0%	27.0%	28.3%			
販管費	2,119	4,416	6,574	8,816	2,413	4,800	8,036			
前年比	25.2%	37.1%	29.0%	27.9%	13.9%	8.7%	22.2%			
売上高販管費比率	22.4%	22.8%	22.8%	22.8%	23.1%	22.3%	23.6%			
営業利益	245	423	966	1,851	401	1,013	1,629		59.2%	2,750
前年比	-54.2%	-62.2%	-30.2%	40.1%	64.0%	139.6%	68.5%			48.5%
営業利益率	2.6%	2.2%	3.3%	4.8%	3.8%	4.7%	4.8%			5.7%
経常利益	12	-4	516	1,426	172	735	1,294		53.9%	2,400
前年比	-96.9%	-	-51.9%	76.6%	-	-	150.7%			68.3%
経常利益率	0.1%	-	1.8%	3.7%	1.7%	3.4%	3.8%			5.0%
当期利益	-307	-810	-725	-567	-148	9	-24		-9.4%	250
前年比	-	-	-	-	-	-	-			-
当期利益率	-	-	-	-	-	0.0%	-			0.5%

出所：会社データよりSR社作成

\*表の数値が会社資料とは異なる場合があるが、四捨五入により生じた相違であることに留意。

### 2019年4月期第3四半期累計期間実績

売上高は34,118百万円（前年同期比18.2%増）、営業利益は1,629百万円（前年同期比68.5%増）となった。また、トンモバイルへの追加出資に伴い持分法による投資損失193百万円を計上したが、経常利益は1,294百万円（前年同期比150.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純損失は24百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失725百万円）となった。

通期業績予想に対する進捗率は、売上高で71.1%、営業利益で59.2%、経常利益で53.9%、親会社株主に帰属する当期純利益では250百万円の会社予想に対し親会社株主に帰属する当期純損失24百万円となった。

モバイル事業では、同社がMVNEとして提供するMVNO支援パッケージサービス「freebit MVNO Pack」が堅調に推移した。また、エンドユーザー向けMVNO事業を行うDTIでは、販促キャンペーンを講じることでユーザー数の拡大を促進した。同じくMVNOとしてエンドユーザーに格安スマートフォンサービスを提供するトーンモバイルにおいても自社ユーザー層に合わせた独自サービスの拡充や拡販キャンペーンの実施し、更なるユーザー数拡大に尽力したことに加え、同社とともに次期新端末「TONE e19」の開発にも取り組んだ。

アドテクノロジー事業では、フルスピード及びフォーイットを中心として事業を推進しており、DSP広告サービスや動画広告市場向けサービスの拡販を図るとともに、アフィリエイトプラットフォームの利便性の向上に努めた。また、今後の事業規模拡大に向けた投資や体制強化等を積極的に実施した。そして、新しいインフラサービスの提供を目的に、ブロックチェーン関連技術を活用したサービス開発にもリソースを投入した。

生活領域の各事業については、今後の同社グループ発展の一翼を担うものとするべく継続的にその育成に注力しており、“Health Tech”分野においてはフリービットEPARKヘルスケアが、また、“IoT”分野においては同社が、“不動産Tech”分野においてはギガプライズが、そして“EdTech”分野においてはアルクがそれぞれ中心となり、同社グループの事業リソースを最大限に活かす形で推し進めている。同社グループでは、現段階において事業規模の拡大を最優先事項と位置付けており、その過程において蓄積される様々なデータをノウハウを競合他社との差別化に活かしていくことが、市場における絶対的優位性の確立に繋がると捉えている。そのためには、性急な収益化よりも顧客基盤獲得のための投資を継続していくことが肝要であるとしている。

セグメント別の業績は以下の通り。

### ブロードバンド事業

売上高は11,398百万円（前年同期比29.0%増）、セグメント利益は1,175百万円（前年同期比18.5%減）となった。

スマートフォンやタブレット、AIアシスタント機器などのICT端末の普及に伴い、宅内Wi-Fi環境を通じたリッチコンテンツやSNSの利用の増加等により、固定回線網サービスの原価率は引き続き高いものの、集合住宅向けインターネットサービスが順調に推移し、売上高は増加した。セグメント利益は、今後の拡大に向けた“不動産Tech”分野への投資やを継続し、減益となった。

### モバイル事業

売上高は6,070百万円（前年同期比5.2%減）、セグメント利益35百万円（前年同期は419百万円のセグメント損失）となった。

MVNO支援パッケージサービスの堅調な推移に加え、エンドユーザー向けMVMOサービスのラインアップの見直しを実行した。売上高は、通信キャリアからの回線卸売り価格の値下げに連動したことで減収となったが、セグメント利益は利益構造の改善により増益となった。

### アドテクノロジー事業

売上高は11,969百万円（前年同期比5.0%増）、セグメント利益は830百万円（前年同期比17.9%減）となった。

アドテクノロジー関連サービスであるDSP広告や、動画広告市場向けの商材を中心としたインターネット広告サービスの提供に注力するとともに、その他のインターネットマーケティング関連サービスの拡販も推進した。また、アフィリエイトサービスにおいては、得意とする業界に加え、その他の業界への提供も着実に広げることで事業規模を拡大した。今後の更なる事業伸長のための投資や体制強化等も実行した。

### クラウド事業

売上高は1,295百万円（前年同期比2.8%減）、セグメント損失が50百万円（前年同期は3百万円のセグメント損失）となった。

これまでのクラウドサービスに加え、高セキュリティの同社グループのクラウド基盤を活かしたIoT特化型サービスの拡販に注力する一方で、システムの整備・改善とレガシーサービスの淘汰を図った。

### ヘルステック事業

売上高は2,179百万円（前年同期比107.2%増）、セグメント損失が93百万円（前年同期は512百万円のセグメント損失）となった。

お薬手帳アプリ利用者や調剤薬局向けソリューションサービス利用事業者の獲得等を企図した投資を継続した結果、事業規模が大きく拡大した。

### エドテック事業

売上高は1,425百万円、セグメント利益が34百万円となった。

主軸となる出版分野においては、日本語・第二外国語出版書籍が好調に推移し、文教分野においては、変化の大きい教育現場の流れを追いながらニーズに応じた製品・サービスを提供することで、大学等からの大型受注を獲得した。なお、前連結会計年度には当報告セグメントに区分すべきサービスが存在しなかったため、前年同四半期との比較は行っていない。

資産合計は35,066百万円となり、前期末と比べて4,269百万円増加した。これは主として、受取手形及び売掛金が1,548百万円、商品及び製品が514百万円、のれんが639百万円、ソフトウェアが525百万円、リース資産（無形）が462百万円増加したことによる。負債合計は24,267百万円となり、前期末と比べて4,146百万円増加した。これは主に、支払手形及び買掛金が310百万円、1年内返済予定の長期借入金が249百万円、長期借入金が2,248百万円、リース債務（固定）が836百万円増加したことによるものである。純資産合計は、非支配株主持分が増加したことにより、前連結会計年度末と比べて123百万円増加の10,798百万円となり、この結果、自己資本比率は24.8%となった。

このリサーチメモは、掲載企業の[最新版レポート](#)にも掲載されています。

株式会社シェアードリサーチは今までにない画期的な形で日本企業の基本データや分析レポートのプラットフォーム提供を目指しています。さらに、徹底した分析のもとに顧客企業のレポートを掲載し随時更新しています。

## ディスクレーム

本レポートは、情報提供のみを目的としております。投資に関する意見や判断を提供するものでも、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。SR Inc.は、本レポートに記載されたデータの信憑性や解釈については、明示された場合と黙示の場合の両方につき、一切の保証を行わないものとします。SR Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。

本レポートの著作権、ならびに本レポートとその他Shared Researchレポートの派生品の作成および利用についての権利は、SR Inc.に帰属します。本レポートは、個人目的の使用においては複製および修正が許されていますが、配布・転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。SR Inc.の役員および従業員は、SR Inc.の調査レポートで対象としている企業の発行する有価証券に関して何らかの取引を行っており、または将来行う可能性があります。そのため、SR Inc.の役員および従業員は、該当企業に対し、本レポートの客観性に影響を与える利害を有する可能性があることにご留意ください。

## 金融商品取引法に基づく表示

本レポートの対象となる企業への投資または同企業が発行する有価証券への投資についての判断につながる意見が本レポートに含まれている場合、その意見は、同企業からSR Inc.への対価の支払と引き換えに盛り込まれたものであるか、同企業とSR Inc.の間に存在する当該対価の受け取りについての約束に基づいたものです。

## 連絡先

株式会社シェアードリサーチ / Shared Research Inc.  
東京都文京区千駄木3-31-12  
HP: <https://sharedresearch.jp>  
TEL : (03)5834-8787  
Email: [info@sharedresearch.jp](mailto:info@sharedresearch.jp)